

## サハ語の連体修飾節

### *dien*「という」挿入に関する日本語との対照を中心に

江畑 冬生 (新潟大学)

本発表ではサハ語の連体修飾節における「外の関係」のうち、内容補充節での補文標識 *dien*「という」について考察する。まず日本語の内容補充節における「という」を扱った研究を紹介しながら、補文標識「という」が用いられる際の被修飾名詞の意味的タイプについて確認する。次に日本語の場合と対照しながら、サハ語の連体修飾節における補文標識 *dien*「という」挿入の条件について考察する。結果としてサハ語で補文標識が現れる場合の被修飾名詞は、「引用系名詞」に限られていることが明らかとなった。

#### 1. はじめに：サハ語の連体修飾節の概観

サハ語は、ユーラシアの東西に広く分布するチュルク諸語の1つである。品詞は名詞類と動詞に大別され、「形容詞」は名詞的な特徴を示す。属格を欠く。

サハ語の連体修飾節では、連体節の述語が形動詞（分詞）で現れる<sup>1</sup>。形動詞は3つの時制を区別し、さらにそれぞれが対応する否定形を持つ。加えて特定の時制を表さない形動詞があるので、形動詞の形式は合計で7つである<sup>2</sup>。形動詞は、連体節述語にも名詞節述語にもなる。

表1 サハ語の形動詞（*üören*「学ぶ」を例とする）

	現在	過去	未来	不定時制
肯定	<i>üören-er</i>	<i>üörem-mit</i>	<i>üören-iox</i>	<i>üören-nex</i>
否定	<i>üörem-met</i>	<i>üörem-metex</i>	<i>üören-imiex</i>	---

サハ語の連体節においては、被修飾名詞（底の名詞）が連体節中の主語に相当するか否かによって、2つの構造を区別する。被修飾名詞が連体節中の主語に相当する場合には、(1)のように被修飾名詞には特に標示が無い。一方で被修飾名詞が連体節中の主語相当ではないならば、(2)のように連体節主語の人称・数に対応する所有接辞が被修飾名詞に付加される。

- (1) *kinige-ni*    *atüilas-pit*    *kihi*  
 本-ACC    買う-VN.PST    人  
 「本を買った人」

<sup>1</sup> 動詞屈折形式は定動詞・形動詞・副動詞の3つに分類される。定動詞は常に主節述語として用いられる。形動詞は連体節述語または名詞節述語として用いられる（例外的に主節に現れることもある。詳しくは江畑 (2013) を参照）。副動詞は副詞節述語または修飾成分として用いられる。

<sup>2</sup> 形動詞未来は、単純未来ではなく可能性や能力を表す：*üören-iox ovo*「勉強のできる子供」。不定時制が連体節述語として用いられるのは極めて稀で、*min die-tex kihi*「私という人」などの表現に限られる。

- (2) *(min) atüilas-pit kinige-m*  
 1SG 買う-VN.PST 本-POSS.1SG  
 「私が買った本」

サハ語の連体修飾節では、いわゆる「外の関係」も表せる。外の関係の場合にもやはり、被修飾名詞には連体節主語の人称・数に対応する所有接辞が付加される。加藤 (2003) の 3.2 節では、外の関係に現れる被修飾名詞を「位置関係」「随伴物」「命題内容」の 3 つに分類している。本発表は「位置関係」の被修飾名詞を伴う連体修飾節の議論をしないことにする<sup>3</sup>。「命題内容」の被修飾名詞を伴う連体修飾節に関しては第 4 節で詳しく検討する。

加藤 (2003: 230) では「随伴物」をさらに「原因随伴物」「過程随伴物」「結果随伴物」に分けている。サハ語ではこれらを連体修飾節によって修飾することが可能である。

- (3) *žaxtar araxs-ar törüöt-e*  
 女性 別れる-VN.PRS 理由-POSS.3SG  
 「女性が別れる理由」

- (4) *xaar-i teps-er tiah-a*  
 雪-ACC 踏む-VN.PRS 音-POSS.3SG  
 「雪を踏む音」

- (5) *ovo-lor 10 sil-i biha üörem-mit tümük-tere*  
 子-PL 10 年-ACC の間中 学ぶ-VN.PST 結果-POSS.3PL  
 「子供たちが 10 年間学んだ結果」

結果随伴物に関しては、連体修飾節ではなく名詞節が先行する構文もある。これは日本語の「～ことの…」に対応するものである。(5)のような連体修飾節が先行する場合には節内の主語の標示は被修飾名詞になされるが、(6)のような名詞節が先行する場合には節内の主語は名詞節述語に付加され、被修飾名詞には名詞節全体を受ける 3SG 所有接辞が付加される。

- (6) *öbüge-ler-bit ilž-e kel-bit uörex-teri-n*  
 祖先-PL-POSS.1PL 運ぶ-CVB 来る-VN.PST 学び-POSS.3PL-ACC  
*umnu-bup-put tümüg-e*  
 忘れる-VN.PST-1PL 結果-POSS.3SG  
 「祖先が伝えてきた知恵を私たちが忘れたことの結果」

<sup>3</sup> 「～する前」を表す場合には、未来時制の形動詞に後置詞化した形式 *innine* 「～の前に」が後続する。「～した後」を表す場合には、過去時制の形動詞が名詞節を形成し後置詞 *kenne* 「～の後」が後続する。どちらの構文でも典型的な連体修飾構造は用いられない。

## 2. サハ語の引用節と補文標識 *dien*

サハ語の引用には、動詞 *die* 「言う」が2つの点で関わっている。第一に、補文標識 *dien* 「と」は、動詞 *die* 「言う」の副動詞形と同形である<sup>4</sup>。例えば(6)や(7)では、補文標識 *dien* が発言動詞 *et* 「言う」や思考動詞 *tolkuydaa* 「考える」の内容を導いている。

- (7) *baaska-ka mas-ta tiej-eer dien ep-pit-im*  
 PSN-DAT 木-PART 運ぶ-FUT:IMP.2SG CMP 言う-PST-1SG  
 「私はバースカに『木を運んでおいて』と言った」

- (8) *ovo-m toko atin ovo-lor-ton kira-niy dien tolkuydaa-n*  
 子-POSS.1SG なぜ 他の 子-PL-ABL 小さい-WHQ CMP 考える-CVB  
 「我が子はなぜ他の子たちよりも小さいのかと考えて…」

次に、発言動詞が *die* 「言う」そのものである場合には、(9)のように補文標識 *dien* は不要となる。つまりサハ語の引用では、動詞 *die* 「言う」または補文標識 *dien* のどちらか一方が必ず現れる<sup>5</sup>。

- (9) *kergem-mer sarsun kel-ie-m die-ti-m*  
 配偶者-POSS.1SG:DAT 明日 来る-FUT-1SG 言う-PST-1SG  
 「私は妻に『明日戻るよ』と言った」

補文標識 *dien* に後続する動詞には発言動詞または思考動詞が多いが、中にはどちらとも言えないものもある。(10)では *itaa* 「泣く」が現れている<sup>6</sup>。

<sup>4</sup> 補文標識 *dien* は *die* 「言う」の継起副動詞形と同形であるが、両者の統語機能は異なる。補文標識 *dien* を主要部とする句は、名詞句としても連体修飾句としても働く。この統語機能は副動詞節（副動詞を主要部とする節）には全くないものである。なおサハ語には別の補文標識として *dii* 「と」があり、こちらは動詞 *die* 「言う」の共起副動詞形と同形である。補文標識 *dii* は、主節動詞として *sanaa* 「思う」のみを導く（Vinokurova (2005: 242) にも同じ指摘がある）。補文標識 *dii* を主要部とする句は常に副詞句としてのみ働き、さらに *dii* と *sanaa* は必ず隣接していなければならないという統語上の制約もある。このように補文標識 *dii* は、補文標識 *dien* に比べ使用範囲が限られているため、本発表では考察対象としない。

<sup>5</sup> 寺村 (1981: 146-149) は日本語の「と」による引用と英語の引用の違いについて記述している。① 日本語の「と」は直接話法における引用符の役割も間接話法における接続詞 *that* の役割もする。② 「と」に導かれる引用内容は、文の一部や感動詞まで様々である。③ 引用節をとりうる動詞は、発言動詞と思考動詞がメインだが、それ以外の動詞であることもしばしばある。以上のことはサハ語の引用にも同様にあてはまる。発表者の観察によれば、サハ語の補文標識の振る舞いは日本語関西方言に似ている。すなわち動詞「ゆう」を用いる際には補文標識が不要だが（一緒にお昼行くゆうたやん）、その他の発言動詞を用いる際には補文標識「って」が必要なようである（すぐ帰るって話しとった）。

<sup>6</sup> なお Vinokurova (2005: 368) では *maša miša kelie dien žieni xomyda* 「マーシャはミーシャが来ると言って家を片づけた」という例文に対し “Masha tidied up the house (thinking) that Misha would come.” という英訳を付している。この解釈からもやはり、*dien* 「と」と思考動詞との親和性の高さが伺える。

- (10) *SPID-ke xaptar-dī-m dien itii silž-ar iččat*  
 エイズ-DAT 掴まる-PST-1SG CMP 泣く:CVB AUX-VN.PRS 若者  
 「エイズになったと言って泣いている若者」

次の例のように、補文標識 *dien* に名詞が後続することもある。しかしながら同じ名詞が後続していても、補文標識 *dien* が現れないこともある。本発表ではサハ語の補文標識の出現について検討する前に、日本語の補文標識「という」挿入に関する研究を見ておく。

- (11) *uolat-tar siŋaav-ī-n tohup-put-tar dien surax-tar*  
 少年-PL あご-POSS.3SG-ACC 折る-PST-3PL CMP 噂-PL  
 「少年たちが彼のあごの骨を折ったという噂」

- (12) *mančaarī ŋurba-va oloxsuy-an olor-or surav-a*  
 人名 地名-DAT 住みつく-CVB AUX-VN.PRS 噂-POSS.3SG  
 「マンチャールがニユルバに住みついている噂」

### 3. 日本語の連体修飾節における補文標識「という」挿入

日本語の連体修飾節のうち内容節では、補文標識「という」が介在しうる。連体修飾節の分類に関する先行研究に関しては松木 (2014) に詳しい。

益岡 (2002) では、「内容節+という」が修飾しうる被修飾名詞のタイプを 3 つに分けている（「引用系名詞」として「発話」に関する名詞と「思考」に関する名詞および「コト系名詞」。以下の例および表 2 中の例も益岡 (2002) からのものである）。

- (13) すぐに理事会を開催しようという提案 [引用系・発話]  
 (14) 日本語は学習が困難だという意見 [引用系・思考]  
 (15) ローマとカルタゴが戦ったという歴史 [コト系]

表 2： 益岡 (2002) による引用系名詞とコト系名詞

発話	言葉, 発言, 指摘, 手紙, 噂, 不平, 質問, 命令, 指示, 提案, 誘い
思考	考え, 信念, 意見, 憶測, 仮定, 疑問, 希望, 祈り, 決意
コト系	事実, 騒ぎ, 結果, 運命, 風習, 例, 歴史, 覚え, 可能性, 仕組み, 商売, 資格, 気配, シーン, 姿, 感触

寺村 (1993: 172) ・益岡 (2000: 216) ・村田 (2005: 151) 等では、「引用系名詞」には「という」が必須であるが「コト系名詞」には「という」が任意であると指摘されている<sup>7</sup>。

<sup>7</sup> ただし発表者の内省によれば、(少なくとも一部の) 引用系名詞は「という」が必須とまでは言えない。インターネット検索を用いると、「〇〇が日本で発売される噂」「自宅の一部を地域に開く提案」「真珠湾を訪問する考え」「社会で活躍し貢献していく希望」等の用例が見つかる。

益岡 (1997: 35-38) や益岡 (2002: 110-113) では、コト系名詞における「という」の有無による意味の違いについて次のような考察をしている。「という」なしの場合には、連体修飾節は被修飾名詞を限定する性格を持つ。一方で「という」ありの場合には、被修飾名詞は範疇に関する情報を与えるのみであり、連体修飾節の方が内容の重要度を持つ。

(16) A: どんな仕事を探していますか。

B: 外国人に日本語を教える仕事を探しています。

(? 外国人に日本語を教えるという仕事を探しています.)

(17) 外国人に日本語を教えるという仕事は、意外と骨が折れるものだ。

#### 4. サハ語の連体修飾節における補文標識 *dien* 挿入

サハ語の連体修飾節における補文標識 *dien* 挿入に関する先行研究は特でない<sup>8</sup>。

サハ語の補文標識を伴う連体修飾節では、被修飾名詞として引用系名詞（発話・思考）が現れることがあるが、コト系名詞が現れることはない。サハ語の引用系名詞は、表3にまとめられる。これらの多くは、発言動詞または思考動詞からの派生名詞である（明らかな派生語には形態素境界を示す）。

表3： サハ語の引用系名詞

発話	<i>keperse-l</i> 「話」, <i>kepsee-n</i> 「話」, <i>ostuoruya</i> 「物語」, <i>sonun</i> 「知らせ」, <i>surax</i> 「噂」, <i>sehen</i> 「話」, <i>suruk</i> 「手紙」, <i>til</i> 「言葉」, <i>iyit-ii</i> 「問い」, <i>iy-ii</i> 「指示」, <i>et-ii</i> 「発言」
思考	<i>baka</i> 「願い」, <i>boppuruos</i> 「問題」, <i>iteke-l</i> 「信仰」, <i>kutta-l</i> 「怖れ」, <i>kiha-lka</i> 「心配」, <i>öy</i> 「考え」, <i>öydö-biil</i> 「考え」, <i>sabaka</i> 「推測」, <i>sanaa</i> 「考え」, <i>tolkuy</i> 「考え」, <i>xomo-lto</i> 「遺憾」, <i>uyulka</i> 「気持ち」, <i>ere-l</i> 「希望」

ただし被修飾名詞が *aydaan* 「騒ぎ」の場合には、補文標識が現れうる。発表者の解釈では、サハ語の *aydaan* 「騒ぎ」はコト系名詞ではなく引用系（発話）名詞である（*aydaan* 「騒ぎ」もやはり、*aydaar* 「騒ぐ」からの派生名詞である可能性がある）。

(18) *bahilay-i*      *kihi*      *ölör-büt*      *dien*      *aydaan*  
 人名-ACC      人      殺す-PST:3SG      CMP      騒ぎ  
 「バフライを人が殺したという騒ぎ」

発表者の作成したコーパス資料を調査した限りでは、コト系名詞の内容節が先行する際に補文標識 *dien* が現れない名詞には以下のものがあつた：*kühirii* 「怒り」, *maxtal* 「感謝」, *kiäx* 「可能性」, *ustuoruya* 「歴史」, *üle* 「仕事」, *zilka* 「運命」, *zühün* 「姿」。

<sup>8</sup> Vinokurova (2005) の第6章では引用節を扱っているが、引用節中の主語が対格で現れうるか否かの議論が主眼である。

- (19) *argis žaxtar-ï-gar kihirgii-r žühün-e*  
 同行の 女性-POSS.3SG 威張る-VN.PRS 姿-POSS.3SG

「同行の女性に威張っている姿」

- (20) *ikki uol oko-tton orduk ovolon-or žilka-lara suox*  
 2 男の子 子-ABL 以上 子を得る-VN.PRS 運命-POSS.3SG ない

「彼らが2人の男の子より他に子をもうける運命はない」

(11)(12)にも示したように、被修飾名詞として引用系名詞が現れていても常に補文標識が必要なわけではない。(11)および以下の(21)(22)には、補文標識 *dien* が現れる。一方で(12)および(23)には、補文標識 *dien* が現れていない。

- (21) *saņa oko-lor kel-bit-ter =iñii dien surax*  
 新しい 子-PL 来る-PST-3PL=そうだ CMP 噂

「[転校生として] 新しい子たちが来たそうだという噂」

- (22) *abaahi dien baar dii sanii-gin =duo dien iyitii*  
 お化け CMP ある と 思う:PRS-2SG=か CMP 問い

「お化けというのは存在すると思いますかという問い」

- (23) *min bevehee kel-e silzi-bit surax-im*  
 私 昨日 来る-CVB AUX-VN.PST 噂-POSS.1SG

「私が昨日来ていた噂」

現段階では、補文標識 *dien* の有無による意味の違いは分かっていない。形式的には補文標識 *dien* の直前は主節述語（定形動詞）同様の形式を取ることが可能であり、(21)(22)のように文末接語を伴うこともある。一方で補文標識がない場合には外の関係の連体修飾構造を取ることになる。従って両構造は次のように定式化できる。

- (24) 主節述語-人称標示 (=文末接語) *dien* 引用系名詞  
 (25) 連体節述語 引用系名詞-人称標示

## 5. まとめ

本発表では、サハ語の連体修飾節における「外の関係」のうち、内容補充節における補文標識 *dien* 「という」が現れる条件について考察した。日本語の内容補充節では、被修飾名詞が引用系名詞の場合に補文標識「という」が義務的であり、被修飾名詞がコト系名詞の場合にも補文標識が現れうる。一方サハ語の内容補充節では、被修飾名詞が引用系名詞の場合に

のみ補文標識 *dien* 「という」が現れ、被修飾名詞がコト系名詞の場合には補文標識が現れることがない。補文標識の有無は言語構造の違いにも反映している。補文標識の有無による意味的な違いを明らかにすることが今後の課題である。

表 4：日本語とサハ語の補文標識と被修飾名詞

	日本語	サハ語
引用系名詞	補文標識必須	補文標識あり：？ 補文標識なし：？
コト系名詞	補文標識あり：連体節に重要度 補文標識なし：名詞を限定	補文標識不可

### 略号

ABL 奪格, ACC 対格, AUX 補助動詞, CMP 補文標識, CVB 副動詞, DAT 与格, FUT 未来, IMP 命令, PART 分格, PL 複数, POSS 所有接辞, PRS 現在, PST 過去, SG 単数, VBLZ 動詞派生, VN 形動詞, WHQ 疑問詞疑問

### 参考文献

- 江畑 冬生 (2013) 「サハ語の動詞屈折形式と統語機能」『北方言語研究』 第3号, 11-23.
- 加藤 重広 (2003) 『日本語修飾構造の語用論的研究』 ひつじ書房.
- 寺村 秀夫 (1981) 『日本語教育指導参考書5 日本語の文法 下』 国立国語研究所.
- 寺村 秀夫 (1993) 「名詞修飾部の比較」『寺村秀夫論文集Ⅱ』 139-184. くろしお出版. (初出は1980年)
- 益岡 隆志 (1997) 『新日本語文法選書2 複文』 くろしお出版.
- 益岡 隆志 (2000) 『日本語文法の諸相』 くろしお出版.
- 益岡 隆志 (2002) 「2 複文各論」 仁田 義雄・益岡 隆志 (編) 『日本語の文法4 複文と談話』 63-116. 岩波書店.
- 松木 正恵 (2014) 「連体修飾節における底名詞の性質と名詞性接続成分 連体複文構文と連用複文構文の接点を求めて」 益岡 隆志 (他編) 『日本語複文構文の研究』 85-127. ひつじ書房.
- 村田 美穂子 (2005) 『文法の時間』 至文堂.
- Vinokurova, Nadezhda. (2005) *Lexical categories and argument structure. A study with reference to Sakha*. Utrecht: LOT.

## 資料

(1) いわゆる連体修飾節・関係節について、

- (a) 述語の形式は、断定・終止形と見かけ上はほぼ同じだが人称標示のタイプと位置が異なる
- (b) ロシア言語学では「形動詞」と呼ばれる。いわゆる分詞 (participle) に相当
- (c) 同形式は、「外の関係」にも使える
- (d) Restrictive relative clause と Non-restrictive relative clause の構造的な区別はない
- (e) 連体修飾節・関係節・準体言の名詞句用法と、これらの修飾用法とでは、形式上の相違がない。  
ただし前者では人称標示が名詞節の述語に、後者では人称標示が被修飾名詞に付加される

(2) 「形容詞(adjective)」は名詞の下位範疇とみなして良い。ただし連体修飾においては名詞との相違も現れる。具体的には、名詞が名詞を修飾する場合に被修飾名詞に所有接辞が付加されることがある：  
*eder biraas* 「若い医者」、*žaxtar biraas* 「女医」、*žaxtar biraah-a* 「婦人科医／ある女性の担当医師」(ただし *žaxtal-lar biraas-tara* 「女性たちの担当医師」)

- (a) 修飾用法 単に名詞の前に並置する。一致はない
- (b) 名詞句用法 名詞と同様に振る舞う。冠詞や形式名詞は存在しない
- (c) 述語用法 人称標示 (コピュラ接辞) が付加される (否定文または過去時制・未来時制では、語彙的意味を欠く形式的動詞の助けを必要とする)。名詞述語の場合とほぼ同様に振る舞う。ただし主語が 1PL・2PL の場合、名詞述語には複数接辞が付加されるが形容詞述語には複数接辞が付加されないという違いがある

(3) 「名詞」の3用法は「形容詞」とほぼ同じ。ただし「修飾」「述語」での違いは(2)の通り

(4) 名詞の属格は無い (上述のように被修飾名詞に所有接辞が付加される)。人称代名詞には物主形があり、名詞句用法と述語用法を持つ。人名などに *kiene* 「～のもの」を後置することで迂言的物主形を形成することも可能

(5) 指示詞・数詞も形容詞・名詞と基本的には同様に振る舞う。指示詞は修飾用法と名詞句用法を持つが、述語用法は無い (述語として用いたい場合には、形式的な動詞の助けを必要とする)。基数・序数・概数・分配数も修飾用法と名詞句用法を持つが、述語用法は無い (なお基数を述語として用いるための専用の派生形式がある。その他の形式を述語として用いたい場合には、形式的な動詞の助けを必要とする)

- (6) 修飾用法 *bil-er kihi-m* 「私が知っている人」 *aax-pit kinige-m* 「私が読んだ本」
- 名詞句用法 *bil-er-im* 「私が知っていること」 *aax-pit-im* 「私が読んだこと」
- 述語用法 *bil-e-bin* 「私は知っている」 *aax-pit-im* 「私は読んだ」